

■最近感銘したこと：副理事長就任あいさつ

— 国民に感動と勇気を与えた自立の走り—

鳥取県農林水産部長 河 原 正 彦



挫折の原点となった2年前の東京国際女子マラソン、その同じ舞台で高橋尚子選手は見事に復活を果たした。

高橋選手がどんな走りを見せるのか、心配と期待の入り混じった思いで久しぶりに食い入るようなテレビ観戦となった。

アテネでの優勝を当然のことと期待していた国民を唖然とさせ、高橋選手が初めてファンの期待に応えられず、文字どおり高橋神話が崩壊した東京国際女子マラソンから2年。

その後の競技ブランク、小出監督からの独立を経た今回の走りは、先頭集団に淡々として行く静かなものであった。

直前に足を故障したため様子を見ながら隠忍自重しながら走っているのだろうと誰もが思っていた。前回力尽きた37キロからの急坂にさしかかったその時、突然、圧倒的なスピードでスパートをかけ後続を一気に突き放してゴール。まさに高橋神話が復活した感動の一瞬であった。

ゴール後のインタビューに高橋選手がこのマラソンにかけた沢山の想いが凝縮されていた。

- ・37キロ過ぎの急坂に差し掛かるところでスパートをかけたのは、前回失敗したところをそのままにしておきたくなかった、克服したかったから。
- ・故障をおして出場したのは自分の判断。(以前であれば大事をとって欠場?)

また、国民に向けての素晴らしいコメントがあった。

- ・悩んでいる人、行き詰っている人に対してのメッセージ
「自ら目標をたて自ら努力をすれば必ず目標はかなえられる。」
- ・30代、40代の人に対してのメッセージ
「人に与えられた時間は平等でありその時間を有効に使えばまだまだ頑張れる。」

尋常でない努力により七難八苦を克服したヒロインだけに許された説得力ある教訓に充ちた言葉である。

バブル崩壊後経済の低迷が長期におよび就職難、リストラ、所得減少等によって若者に閉塞感が漂う中、自立の走りで目の覚めるような感動と勇気を国民に与えた東京国際女子マラソンであった。

自立といえば今、地方財政の危機的な状況と経済の低迷によって緑化推進委員会にも自立の方向が求められています。

市町村合併等により運営費に対する行政の負担がカットされるようになったのです。

財政難の折とはいえ少し残念な気もしますが、県民、企業、団体等の浄財を原資に緑化推進を図るという原点に立ち返り、関係者が一丸となって啓発活動、募金活動にあたり、緑化活動が停滞することがないよう効率的な委員会運営に心がける必要があると考えています。

今後とも緑化推進委員会の運営について御理解と御協力をお願いします。

■平成17年度春期「緑の募金」実績

平成17年度緑の募金計画

募金運動期間 春期 3月25日(金)～ 5月31日(火)
秋期 9月 1日(木)～ 10月31日(月)
募金目標額 2,800万円

平成17年度春期の「緑の募金」は、今年が緑の募金による森林整備の推進等に関する法律制定10周年に当たることから、懸垂幕による事前広報やラジオによる募金の呼びかけ等新しい試みも行っており取り組みましたが、前年同期の94%の実績にとどまりました。

この浄財の内、街頭募金・学校募金・家庭募金は、募金額の70%を限度として各市町村支部を通じて募金団体に交付金として交付し、学校や地域の緑化に活用してもらいます。

その他の募金については、事務局で取りまとめて、団体等が行う森林づくりや緑化イベントなどの事業の助成金として交付することになっています。

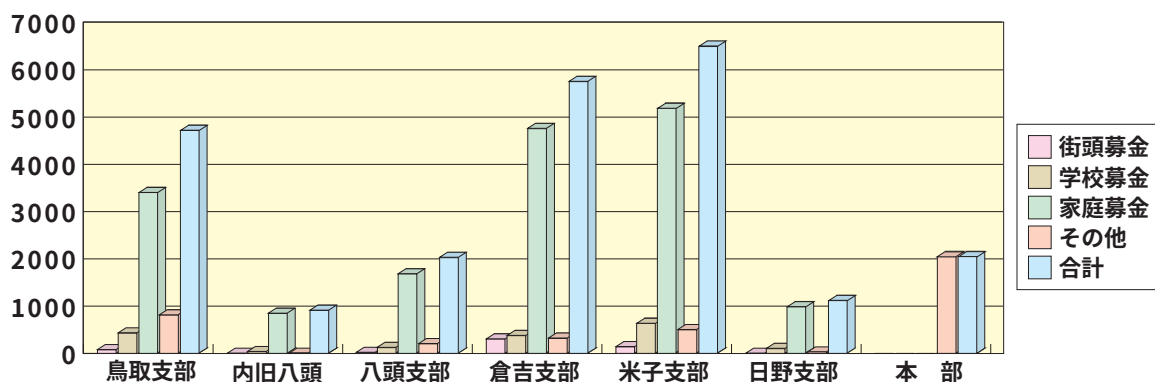
「緑の募金」の用途については、緑の募金運営協議会の意見を聞きながら、森林の整備や身近な緑化の推進などに有効に活用してまいりますので、募金目標達成のため今後とも一層のご理解とご協力をお願い致します。

春期緑の募金実績

単位：千円、%

区 分	平成17年度							平成16年度
	街頭募金	学校募金	家庭募金	その他	合 計	割 合		
平成17年度	鳥取支部	75	427	3,404	812	4,718	21.3	4,712
	内旧八頭	0	36	865	8	909	4.1	982
	八頭支部	22	121	1,680	202	2,025	9.1	2,137
	倉吉支部	304	375	4,755	317	5,751	26.0	6,706
	米子支部	173	635	5,188	498	6,494	29.3	7,131
	日野支部	0	99	986	32	1,117	5.0	1,066
	本 部	0	0	0	2,048	2,048	9.2	1,858
	合 計	574	1,657	16,013	3,909	22,153	100.0	23,610
割 合		2.6	7.5	72.3	24.0	100.0		
平成16年度		674	1,818	16,905	4,213	23,610		

平成17年度春期募金の種類別・支部別実績



高額募金者のお名前（敬称略）

40万円以上 鳥取三洋電機グループ
15万円以上 新日本海新聞社
10万円以上 小林敏克 竹内功次 森正宏

■第15回森林のめぐみ感謝祭の開催

第15回森林のめぐみ感謝祭は、実行委員会（山根英明会長）の主催により、11月3日（木）に西伯郡南部町の緑水湖周辺を会場に開催されました。

朝方の雨も式典開会時には上がり、県下各地から11,000人もの来場者があり、森林や木に親しむ体験や展示、周辺の元気な集落・団体等の出展で会場は大にぎわいでした。

本委員会は、実行委員会メンバーとして参画し、西伯小学校みどりの少年団の協力により来場者に緑の募金を呼びかけるとともに、カリン・マンサクの苗木1,100本を午前・午後の2回に分けて無償配布しました。

また、併催行事として、メイン会場対岸のなんぶ森林公園で、森林ボランティア等による野外交流フォーラムを開催し、40名が意見交換や枝打ち・間伐研修を行いました。



緑の募金



苗木無償配布



枝打ち研修

■みどりの少年団交流集会

平成17年度みどりの少年団交流集会を、7月27日から2泊3日の日程で大山青年の家において開催しました。

今年は、米子市の箕蚊屋・車尾・成実・淀江の4小学校みどりの少年団総勢51名の参加となりました。

2日目の星空観察と3日目の大山自然観察で雨に降られましたが、団員は元気に活動し交流を深めました。

【内容】

1日目 ウッドクラフト、野外炊飯（ピザ）、キャンプファイヤー

2日目 自然観察、カヌー教室、星座の話

3日目 大山自然観察



キャンプファイヤー



カヌー教室



大山自然観察

■みどりの少年団発表大会参加

「大山の森と自然、未来へつなげぼくらの手で」

大山町立大山西小学校 校長 金田 吉人

10月29日、兵庫県尼崎市アルカイクホール・オクトで、緑の少年団全国活動発表大会が開かれ、全国各地から選ばれた7校がそれぞれすばらしい発表を行いました。鳥取県からは大山町立大山西小学校みどりの少年団が参加し、代表として金川尚人君と桜井由貴さんが、「大山の森と自然、未来へつなげぼくらの手で」というテーマで堂々と発表しみどりの奨励賞を受賞しました。

発表の主な内容は次の通りです。

- 総合学習での森林体験学習

酸素放出実験で酸素の作られる様子を目で確認しその大切さを実感した後、ヒノキの植林や枝打ち、下草刈りなどの森林体験活動を行う。

- 農業体験学習による奉仕活動

本校の伝統となっている花作り活動や農薬を使わない合鴨農法による米作り、そしてそば作りを通じてネパール支援活動等に取り組んでいる。

- 自然保護の意識を高める文化活動

大山の自然を壊す者をこらしめるという大山烏天狗伝説をもとに作った群読とダンスで全校児童による新しい文化「大山烏天狗伝説」として自然保護の意識を地域に発信。

発表態度、内容とも高い評価をいただきましたが、とりわけ「大山烏天狗伝説」の映像は参加者の大きな注目を集めていました。夜は三田市内のキャンプ場で兵庫県内のみどりの少年団との交歓集会もあり楽しいひとときを過ごしました。

翌日は快晴の中、全国育樹祭に参加し、その中で昭和天皇お手植えの松から育てた黒松を常田農林水産副大臣からいただくことが出来、今後の活動への決意を新たにしていました。



堂々と発表(桜井さんと金川君)



緊張しながら審査発表を待つ



尼崎市アルカイクホールにて



全国育樹祭でみどりの贈呈式

第16回緑の少年団全国大会へ参加して

智頭町立富沢小学校

第16回緑の少年団全国大会が、7月27日（水）～29日（金）に高知県で「残そうよ 緑のたから 未来まで」をテーマに開催され、本校から2名の児童が参加しました。

27日の記念式典では、アトラクションや全国の緑の少年団の中から選ばれた3団体の表彰、活動発表等がありました。

（児童の感想）

鳥取県代表として、高知県で行われた緑の少年団全国大会に参加しました。こんなことはめったにないから参加しようと思いました。（中略）入場行進のとき、会場は人でいっぱいでした。その後、席について発表を聞きました。アトラクションは高知県の小学校のオペレッタでした。

「緑の少年団は、自然を取りもどすため、数々の体験をして、自然を大切にしていくながら活動の目的だ。」ということを感じてくわしく発表していました。全校児童が23人だと聞いておどろきましたが、小学校では、いかに川下りをしたり、木や花を植えて自然を増やしたり、いろんな取り組みをしているということでした。自然のことをよく考えているなあと思いました。



大会での入場行進の様子



四万十川を満喫!!

その夜は、それぞれが、2日目の会場近くに宿泊しました。子どもたちは、窪川町の青少年旅行村に到着した後、他県の子どもたちとの交流会がありました。ゲームや名刺交換を中学生がリーダーとなり進めてくれました。たくさんの友だちと仲良くなることができたようです。

2日目は、まず、四万十川に架かっている沈下橋の見学でした。沈下橋は、大雨で川が増水すると沈んでしまう有名な橋だそうです。その橋の上から飛び込んで、四万十川を満喫している子どもたちもいました。

午後は、山登りとそば打ちと海の体験でした。初めてのそば打ち体験でしたが、自分の打ったそばの味は格別だったようです。また、台風の過ぎ去ったばかりの海は、波は高かったのですが、みんなが太平洋で泳ぐ体験もできました。

その夜には、バーベキューをして楽しいひとときを過ごせました。グループ毎に次の日の体験活動発表に向けて準備をしました。写真をみて感想をまとめたり、覚えるくらい発表練習をしていました。また、子どもたちは、2日間一緒に過ごしたことでとても仲良くなり、自由時間に住所を教え合ったり名刺交換をする姿もみえました。



そば打ち体験の様子

3日目は、全8班の小学生を含めた400人の人が須崎市立市民文化会館に集まり、体験活動発表をしました。

他の班の発表の中には、鯉のたたき体験や竹で炊いたご飯を食べている班や龍馬脱藩ウォークをした班もあり、どの班も高知を満喫しているようでした。

（児童の感想）

ぼくは、この3日間で他の県の人と話をしたりゲームをしたりして仲良くでき、楽しい思い出がたくさんできました。そして、他校の発表や四万十川での活動を通して、自然は大切にしていくながら学ぶことができました。これからも環境を大切にしようと思います。緑の少年団全国大会に参加して本当に良かったです。

子どもたちにとっては、この大会に参加することで、自然環境に目を向けたり、全国の少年団の人たちとの交流も深めたりでき、充実した3日間となったようです。



体験活動発表の準備

■ 琴浦町合併一周年を記念して植樹

緑の募金事業（森林づくり） 琴浦町支部



写真提供：日本海新聞（平成17年11月23日掲載）

琴浦町支部では、平成17年11月19日、琴浦町野井倉・一向ヶ平において、町民の手による植樹により緑化意識の高揚と緑化の推進を図るとともに、併せて琴浦町の合併一周年を記念し、町民憩いの場となるよう「合併記念の森づくり」として植樹活動を行いました。

当日は、町長、議長をはじめ、農協関係者や地元小学校の児童、町民約100名の参加のもと、はじめに参加者を代表して、町長、議長らが町の木である「ブナ」の植樹を行い、続いて参加者全員がブナやヤマザクラなどの植樹に汗を流しました。

この記念の森が、健やかに生長し、憩いの場として多くの町民に愛され、利用されることはもとより、東伯町と赤碕町の合併により誕生した新しい琴浦町の町民協働の象徴となることを願ってやみません。

■ “新” 鳥取市国府町の更なる発展を期して合併記念植樹

緑の募金事業（合併記念植樹） 鳥取市支部

10月25日（火）鳥取市国府地区保健センター前庭にて、社団法人鳥取県緑化推進委員会「平成17年度緑の募金助成事業」により「国府町・鳥取市」合併記念植樹を実施しました。

絶好の秋晴れのなか、地元さつき保育園児・国府地区保健センター（デイサービス）施設利用者及び市社協国府総合福祉センター職員等約70名が参加、林 茂良国府町総合支所長が「国府町、鳥取市が合併してちょうど1年が経ちました、これを期に鳥取市国府町の更なる発展を願うとともに、将来に亘り鳥取市国府町の中核施設となる、鳥取市国府地区保健センター前庭にこのような記念植樹を実施することが出来、同保健センター並びにデイサービスセンターを訪れるお子さん方から高齢者のみなさんが、この記念樹に親しんでいただくと同時に暖かい憩いの広場にしてください」と挨拶。

この後園児、施設利用者の方々と力をあわせ元気いっぱい、シラカシ5本・クロガネモチ5本をそれぞれ同センター前庭に記念植樹を実施しました。



■境港市の荒廃地をなくそう

緑の募金事業（地区緑化イベント） あゆみの会境港会長 寺本 眞一

本会は、「境港市の荒廃地をなくそう」を目標の一つに掲げて結成したボランティア団体です。

「元来、畑地であったり住宅地であったりした荒廃地を整地した後は何をなすべきか。その際、予算的な措置はどうするか。」を考えながら取り組んで参りました。

今回は、「住宅地の中にある荒廃地を整備し、ポケットパークをつくりツツジを植えよう。」との地域住民の方からの提案により、実施に踏み切りました。

ポケットパーク整備の予算確保のため、従来から取り組んでいた「緑の募金」を自治会、あゆみの会境港の組織として取り組んだ結果、予想以上に沢山の募金を集めることができました。

鳥取県緑化推進委員会からの支援も受けて、自治会の「憩いの場」が立派に完成致しました。

整備する過程で自治会とのコミュニケーションが図られ、緑化事業の意義を地域に浸透することができました。



■枝打ちツアーを実施して

緑と水の森林基金事業（青少年・民間活動グループ育成）

鳥取市美保南老人クラブ新生会会長 但井 源 一

10月14日に、秀峰大山の山麓でアカマツ美林の視察とヒノキの枝打ちツアーを実施する機会に恵まれ、会員29名が参加しました。

当日は、朝からあいにくの小雨模様でしたが、大山町赤松に着く頃には雨も上がり、真っ直ぐ伸びたアカマツの美林を所有者の伊澤卓司氏の説明を熱心に聞きながら散策しました。



午後は、会場を伯耆町丸山に移して、鳥取県西部農林局の林業改良指導員の方の指導によりヒノキ林の枝打ちを行いました。根際からついている枝を顔ぐらいの高さまで切り落とす作業は、殆どの参加者が始めてのことで大変でしたが、全員が精一杯作業しました。1時間あまりの作業を終えて振り返ってみ

ると、最初は暗かった林が向こうの山が見通せるほどきれいに仕上がっており、一同さわやかな充実感を味わいました。

これからも、できるだけ機会を見つけてこのような催しを計画し、多少でも森林づくりに貢献できたらとの想いを強くした一日でした。



■事務局だより

平成17年度の「森の名手・名人100人」認定

森林文化・技術の伝承を目指す運動の一環として認定される「森の名手・名人100人」に、平成17年度は、鳥取県からは、森栄伸(もりよし のぶ)さん(鳥取市：原木椎茸栽培)と坂本幸稔(さかもとゆきとし)さん(八頭町：木馬引き)の2名が選ばれました。これで、鳥取県の「森の名手・名人」は9名になりました。



森栄伸さんは、昭和40年から原木椎茸栽培に取り組み、平成5年に「鳥取茸王」が誕生してからはいち早くそのハウス栽培を導入し、単位当たり収量・品質とも県下トップクラスの成績を上げておられます。また、鳥取県椎茸品評会において鳥取地区を団体優勝に導くなど、地域の椎茸生産者グループのリーダーとしても活躍されています。

坂本幸稔さんは、父親のもとで伐採・搬出技術を磨き、昭和50年代からは一人親方として伐出作業一筋に従事しておられます。どんなに急傾斜の森林でも木馬による搬出をすることができる技術を身につけ、今でも車両や架線による搬出が困難な場所では、その卓越した技術を生かして木馬による木材搬出を行っておられます。



中国・四国地区緑化功労者に小西護郎さん



11月15日に松江市で開催された平成17年度中国・四国地区緑化推進協議会総会において、緑化功労者5名の表彰が行われ、鳥取県からは伯耆町丸山の小西護郎さんが受賞されました。

小西さんは、永年丸山生産森林組合長として、所有森林の整備はもとより、地元の小中学生を対象にした林業体験・森林学習会や広く県民を対象とする森林シンポジウムを開催するなど森林保全の意識啓発に積極的に尽力されている功績が認められて受賞されました。

会員募集

社団法人鳥取県緑化推進委員会は、緑の募金などを主な財源として、森林の整備や身近な緑化などの推進を図り、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化の推進に寄与することを目的として設立された公益法人です。

趣旨にご賛同の皆様のご入会をお願いいたします。お問い合わせは、当委員会までお願いします。

(電話：0857-26-7416)

会員の年会費 個人・団体・企業 一口1万円以上